

私の子育て奮闘記 46

ネットやゲーム

どう向き合う？

子どもたちがゲームやインターネットに触れる時間が増える夏休み、どう向き合うべきか悩む保護者は少なくない。

伊東市内の40代の母親は、息子（10）の9万円近い課金を請求メールで知った。男児は母親のスマホゲームでコイン購入のボタンを意味も分からず24回押していた。通信料に加算されるキャリア決済で支払われた。課金は駄目とは伝えたが、これが課金のボタンかを母親は知らない。

各町の消費生活センターは、親の承諾がない未成年者の契約は未成年者取り消し制度で解約できる場合もあるという。消費者ホットライン1888に相談を、と呼び掛ける。

親が介入し、一定期間スマホから遠ざけた。一進一退を繰り返すが、1年弱で退学が決まった。母親はフルタイムで働きながら「私が悪かったのか」と自分を責めて体調を崩すが、必死で関わり続けた。否定的な言葉を

使わず、「こんな生活をしたくない」と問い掛けて息子にその先の人生をイメージさせた。依存しやすいつけられたアルバイトを始めた息子は自己抑制に努め、親子関係も良好だ。

県依存症拠点機関・聖明病院（富士市）の公認心理師・松井裕生（36）と作業療法士・土屋会生（かすき）さん（35）は、「やり過ぎて問題が起きているがやめられない」と訴える人が

高額課金や依存で退学

世代、障害越え交流可能

最近多いと話す。同病院にゲーム・ネット依存の相談が寄せられ始めたのは、ここ、5年のことだ。内閣府の調査では、この1年で小・中・高校生のネット利用が1日平均約1時間も増えている。松井さんらは使い過ぎの予防策として、与える機器の順序に着目する。

伊豆市の伊豆総合高土肥分校は2年前にeスポーツ部を設立させた。大会出場はせず、運動を取り入れるなど独自の活動内容を生徒主体で決める。規律ある居心地の良い「居場所」として人気の部だ。顧問の瀧口俊一教諭（41）は人間関係づくりを重視。ゲームを「コミュニケーションツール」と表現する。

部員の山田遊夫（こお）さん（18）はゲームの魅力について「一年生の身体能力で差がつく運動と違い、誰でも指先で戦える。オンラインで幅広い世代の友達ができ、対面のコミュニケーション力もついた。忌避することはないと思ってる」と話す。

聖明病院の松井さんらも「ゲームの動画を見て子どもが感じている世界を知ることができれば、子どもの目線に近づけるかもしれない」と、保護者がゲームを知るメリットを認める。「家族皆で悩んでしまう現代的な問題。環境や性格を考慮して、各



子どもの課金で前月分を大幅に上回った請求額

子どものインターネット利用時間

	2020年	2021年
未就学児		
1時間31分	1時間52分	
小学校低学年		
1時間53分	1時間58分	
小学校高学年		
2時間26分	3時間27分	
中学生		
3時間20分	4時間19分	
高校生		
4時間27分	5時間31分	

※内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」より

「eスポーツ」と捉えるものだ。伊豆市の伊豆総合高土肥分校は2年前にeスポーツ部を設立させた。大会出場はせず、運動を取り入れるなど独自の活動内容を生徒主体で決める。規律ある居心地の良い「居場所」として人気の部だ。顧問の瀧口俊一教諭（41）は人間関係づくりを重視。ゲームを「コミュニケーションツール」と表現する。

部員の山田遊夫（こお）さん（18）はゲームの魅力について「一年生の身体能力で差がつく運動と違い、誰でも指先で戦える。オンラインで幅広い世代の友達ができ、対面のコミュニケーション力もついた。忌避することはないと思ってる」と話す。聖明病院の松井さんらも「ゲームの動画を見て子どもが感じている世界を知ることができれば、子どもの目線に近づけるかもしれない」と、保護者がゲームを知るメリットを認める。「家族皆で悩んでしまう現代的な問題。環境や性格を考慮して、各

県が提供しているネット依存度判定サイトのQRコード

（パスワードは全て0000）



和氣あいあいとゲームをする伊豆総合高土肥分校のeスポーツ部＝伊豆市土肥

伊豆の子育て親育て

※毎月第1水曜日に掲載します